

平成26年2月5日  
東京商工会議所

## これまでに延べ33万人が受験している eco検定(環境社会検定試験)新テキストの発行について ～2006年の初版発行以来、初となる全面改訂～

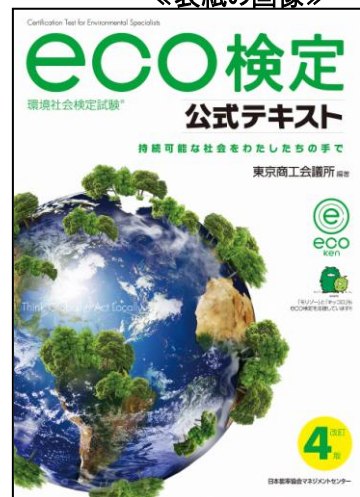
東京商工会議所(三村明夫会頭)は、eco検定(環境社会検定試験/田畑日出男 環境社会検定委員会委員長:いであ(株)会長)の新テキストとなる「改訂4版 公式テキスト」を2月10日に発行いたします。

### ◆構成・執筆者を一新して全面改訂

2006年に初版を発行して以来、約2年毎に情報のアップデートを中心とする改訂を行ってきましたが、最新の科学的知見や最近の環境政策課題などの動向を踏まえ、改訂4版は構成、執筆者も一新して全面改訂いたしました。

構成の見直しにあたっては、上智大学大学院・地球環境学研究科の柳下正治客員教授を委員長とするテキスト作成委員会を新たに組織し、あらためて“いま、エコピープル(=eco検定合格者)が知っておくべきこと”から協議を行いました。大学や高校の授業などでも活用いただける、環境の基礎知識を網羅的・体系的に学習できる“環境学習の入門書”に仕上がっています。

《表紙の画像》



### ◆注目度の高い

#### 「地球温暖化」「エネルギー」「生物多様性」「震災関連・放射性物質」を拡充

注目度の高いテーマについては、大幅に加筆・新設いたしました。(以下は一例)

地球温暖化	地球温暖化のメカニズム、最新の知見(IPCC 評価報告書等)、対策の基本的考え方、具体的な取り組み(国際社会や国の制度等)を体系的に取りまとめています。
エネルギー	環境問題と密接な関係を有するエネルギー問題について基本的な構造や変遷を解説しています。エネルギー政策やエネルギー供給源の種類や特性、再生可能エネルギー、省エネルギーについても紹介しています。
生物多様性	感覚的には重要だと知っているものの、“なぜ重要なのか”や“どのような取り組みがあるのか”までは知られていないことが多い生物多様性の問題について、生態系サービスの仕組みから現状とその課題、現在進められている施策まで体系的に取りまとめています。
震災関連・放射性物質 【新設】	東日本大震災によってもたらされた環境問題を整理し、それらの問題に対しどのような対策をとってきたのか、今後の課題などについて紹介しています。また、イメージが先行し強い先入観を持たれがちな放射性物質について、正確な知識と実情をお伝えしています。

## ◆「e c o 検定 改訂4版公式テキスト」の概要

- ◇タイトル： 改訂4版 環境社会検定試験（e c o 検定）公式テキスト
- ◇出版社： 株式会社日本能率協会マネジメントセンター
- ◇定 価： 本体2, 600円＋税
- ◇発行日： 2014年2月10日
- ◇編著者： 東京商工会議所
- ◇ページ数： 288ページ（第3版と比べ約50ページ増）
- ◇販 売： 全国の書店のほか、東京商工会議所や日本能率協会マネジメントセンター等のウェブサイトにてお買い求めいただけます。

## ◆e c o 検定（正式名称：環境社会検定試験）とは

- ◇環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の推進に向けて、環境に関する幅広い知識を身に付けた人材を育成するために東京商工会議所が企画し、全国の商工会議所と共催で実施している検定試験。
- ◇2006年に創設し、これまでに15回の試験を実施。試験会場は、47都道府県・約250ヶ所。
- ◇e c o 検定受験者数（累計）

受験者数	合格者数	合格率
331, 573名	198, 876名	66. 3%

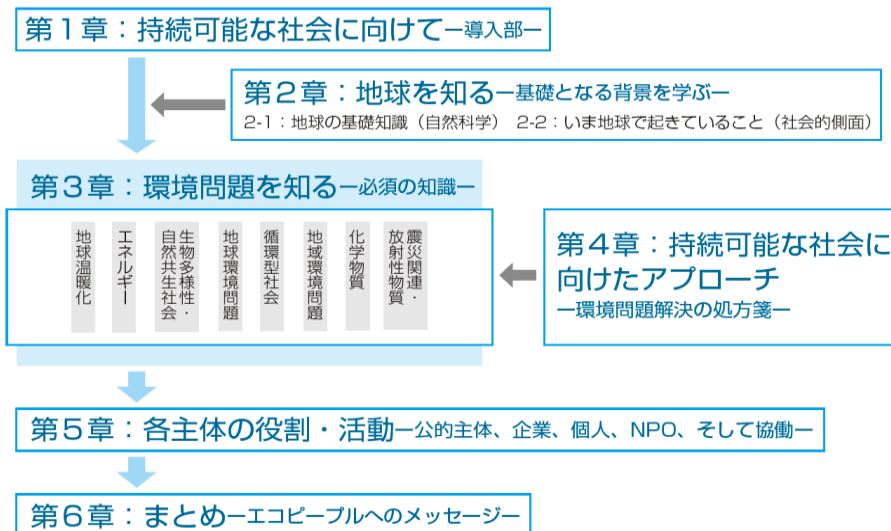
- ◇検定合格者を「エコピープル」と呼称し、合格者の環境保全に向けた取組みを促進・支援している。詳しくは、エコピープル支援協議会のウェブサイト（<http://www.eco-people.jp/>）を参照。
- ◇受験者のうちビジネスパーソンの割合が約80%を占め、環境教育ツールとして企業に多く活用されている。企業における環境教育において、基礎的な総合知識を身に付けるフェーズでは、専門家によって必要な知識が体系的・網羅的に整理された、当検定試験のような外部機関の教育ツールを活用することが効果的・効率的であると評価を得ている。

**試験日：** 7月と12月の年2回実施  
2014年は、第16回試験(7月27日(日))、  
第17回試験(12月14日(日))を予定しています。  
**受験料：** 5, 400円（税込）

以 上

---

【本件に関する問い合わせ先】 東京商工会議所 検定センター  
担 当：北川  
TEL：03-3283-7666  
E-mail：ecoken@tokyo-cci.or.jp



## 《第1章：持続可能な社会に向けて》

本テキストのオリエンテーションです。環境問題を知り、考えるうえでもっとも基礎となる知識、考え方を習得します。人間が、有限の地球上において、将来にわたって環境の恩恵を享受して発展し続けていくことを可能とするためには、人間が「持続可能な開発 (Sustainable Development)」の考え方に基づく行動が必要であることを学びます。

## 《第2章：地球を知る》

環境問題を理解していくうえで、環境問題が生ずる背景に一体何があり、どのような世の中の動きがあるのかを学習します。自然科学的な知識と地球社会の経済・社会的な側面の両面で学習します。

## 《第3章：環境問題を知る》

環境問題を系統立てて解説しました。本テキストの核心部です。前半は「地球環境問題」を中心に扱い、地球温暖化、生物多様性問題などを一つひとつ、できるだけ平易にその現象など科学的な知識を解説し、さらに国際社会および日本における取組みの現状や課題などを説明しました。後半では、身近な「地域環境問題」を中心に、循環型社会づくり、大気環境、水環境、化学物質などを取り上げました。身近な日常空間の中で生じている問題について、基礎情報を得て、直面している課題解決への理解を深めることができるように工夫しました。また、今回のテキストから、放射性物質と環境とのかかわりを環境問題として取り込んでいます。

## 《第4章 持続可能な社会に向けたアプローチ》

環境問題にはさまざまな事象があり、課題があります。この章では、多くの事象や課題に対していかなる考え方で向きあうべきか、そして問題解決をめざしてどのような目標を立て、どのような手法を用いて取り組んでいったらよいかについて、説明しました。

## 《第5章 各主体の役割・活動》

環境問題を解決する主役は、社会を構成する全てのメンバー、すなわち国・自治体などの公的な主体、企業、市民、およびNPO/NGOです。それぞれの役割分担に基づいた、各主体による問題解決に向けた積極的な取組み・活動と、各主体による協働の取組みが求められています。本章では、取組み事例をできるだけ紹介しました。

## 《第6章 まとめ／エコピープルへのメッセージ》

皆さんが持続可能な社会への変革の担い手として、それぞれの場において活動を展開されることを祈念して「まとめ」としました。